



「投資信託の基本と留意点」 Vol.3

第50号より3回連続でお送りしております、投資信託の基本と留意点。今回は一般の方が投資信託を選ぶ際に目安のひとつとなるリスクの度合いと投資信託評価会社や情報サービス会社の評価についてご紹介します。

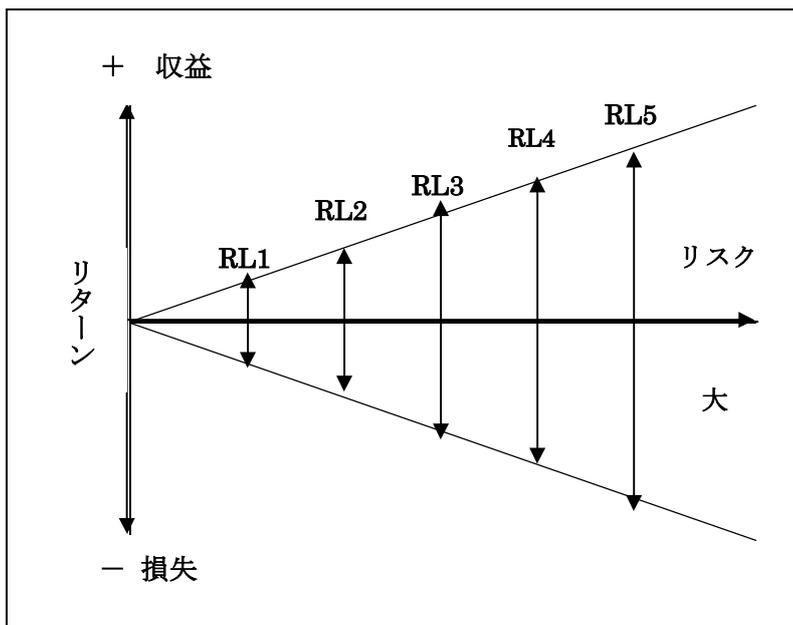
1. ファンドがもつ、リスクの度合いを確認する

投資信託は Vol.1 でも書きましたが、種類が多いだけに一般の生活者が自分に合ったファンドを選ぶのはかなり大変です。投資先（国内か、海外か）、購入タイミング（単位型か、追加型か）、投資対象（株式か、公社債かなど）、運用法別（アクティブか、パッシブかなど）を理解いただき、リスク許容度を確認します。

リスク許容度の目安としては、NRI 野村総合研究所（野村総研）やモーニングスター、QUICKなどが作成しているリスクレベル（リスクメジャー）が参考になるでしょう（＜図表1＞参照）。

これはファンドのリスク度を5段階あるいは6段階で評価したもので、数字が高くなるほどハイリスクになります。一般の方が投資信託で運用するならリスクレベルが中間のRL3以下のものを主体し、ハイリスクのものはよく吟味した上で、トッピング的に資金のごく一部にとどめておくべきでしょう。

＜図表1＞投資信託のリスクとリターンの関係図（イメージ）



＜リスクレベルの分類＞	
RL1	…安定性を重視したタイプ (元本・利回りの安定性を確保)
RL2	…値動きが小さいタイプ (年率リスクが5%以下)
RL3	…値動きが中程度タイプ (年率リスクが5%超 15%以下)
RL4	…値動きが大きいタイプ (年率リスクが15%超 30%以下)
RL5	…値動きが最も大きいタイプ (年率リスクが30%超)

※上図はNRI野村総合研究所によるファンド評価（Fundmark/RL）をもとに、リスクとリターンの関係をイメージ化したもの。リスクレベル（RL）の数値が上がるほど、振れ幅は大きくなる（リスクもリターンも大きくなる）。

また、筆者は投資信託入門者や初級者に対しては、公社債投資信託ではリスク度合いが最も低く銀行預金より利回りの高い MRF や MMF、中期国債ファンドを。株式投資信託では基準価額も把握しやすい日経平均株価や TOPIX 連動のインデックスファンドや ETF（上場投資信託）から始めるようおすすめしています。

2. 複数の投資信託評価会社や情報サービス会社のファンド評価を勘案

では、具体的にお客様からある特定のファンドについて、総合的に評価するとどのようになるのかを尋ねられた場合、皆様はどのように対応されているでしょうか。

筆者の場合は、ファンドの運用会社のホームページで運用状況などを確認するとともに、第三者の立場でそのファンドを客観的に評価している複数の投資信託評価会社や情報サービス会社のスターレート（星の数）やスコア（数字）を確認しています。最近では下記の3つの URL の評価をすべて足して、3で除する方法でそのファンドの客観的な総合評価をお伝えしています。

そして、筆者はその方法で総合評価の平均点が3以上のファンドであること、できるだけ3年間の運用評価で3以上を獲得しているものの中から選択するのが望ましいとお伝えしています。

1. モーニングスター 投資信託情報 <http://www.morningstar.co.jp/>
2. リッパー Leading Fund Intelligence
http://www.retail.lipper.wallst.com/lipperJP/overview.asp?type=f&menuid=I_F
3. エービック FundLand <http://www.fundland.com/>

たとえば、純資産総額が桁違いに高く、5兆円ファンドとして知られる愛称グロソブ「グローバル・ソブリン・オープン（毎月決算型）」について直近の3社の評価を確認してみましょう。（ ）はその評価です。いずれも5段階評価の5が最高位となっています。

2のリッパー社の評価（スコア）については4ブロックの評価平均点を記載しています。

■2008年1月31日時点

1（4）+ 2（2.75）+ 3（2）= 8.75 ※3社の平均 $8.75 \div 3 = 2.92 < 3$

■2008年2月29日時点

1（3）+ 2（2.75）+ 3（2）= 7.75 ※3社の平均 $7.75 \div 3 = 2.58 < 3$

筆者の個人的な見解では、やや軟調気味になってきたかなと思える総合評価です。もちろんそれぞれ評価の仕方や情報収集が違いますので、あくまでも3社の評価を兼ね合わせた個人的分析での見解であることにご留意ください。また、皆様もご自分なりの評価法や評価会社等の評価を勘案してみてはいかがでしょうか。

【著者プロフィール】

加藤 文子 (かとう あやこ)

クリエイティブハウス・アテール&品川FPガーデン代表。

CFP®、1級ファイナンシャルプランニング技能士。DCアドバイザー。

コピーライターとして都市銀行の広告企画・制作を担当していたことからFP資格を取得。

「知らないで生活者がソンをしないように」をモットーに、金融・保険・ライフ&リタイアメントプランの分野を中心に、講演やセミナー講師、執筆、個人へのアドバイスなどを行っている。

★本メルマガに対するご意見を募集します！★

簡単なアンケートですので、是非、ご協力をお願いします。

↓税理士FP実務研究会メルマガアンケート アドレス↓

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。

執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局<株>日税ビジネスサービス 総合企画部までご連絡ください。

TEL 03-3340-4488